



『まちこたけちゃん と 夏休み』

校長 二瓶 庄吾

38日間の夏休みを元気に過ごした子どもたちが中川小学校にもどってきました。夏休みの作品を大事そうに抱えている子、久しぶりに会った友だちと楽しそうに笑っている子、重い荷物を持って汗をかきながら一生懸命歩いてきた子、心も体もまだ夏休みのリズムからぬけきれていないのか少し元気のない子など、それぞれの夏休みの思い出とともに登校してきました。

今年の夏は、コロナ禍での制限がなくなったり緩和されたりして、「4年ぶり」の言葉とともに様々な行事等が復活・再開しました。この中川小学区の地域行事も、たくさんの方々の思いと努力で執り行われました。

7月22日(土)に行われた「虫送り」は、横浜市都筑区南山田で江戸時代から続くと言われる伝統行事で、横浜市無形民俗文化財にも指定されているそうです。山田神社をお囃子の行列が出発して日が落ちてくる頃、薄暗いまちのなかにたいまつが灯ります。道路沿いに火を灯した行列が進んでいく光景はとても幻想的で、どこか別世界にいるかのような感覚になるほど感動的なものでした。また、7月29日(土)に行われた「大綱町 納涼祭」は、出店や映画の上映会で盛り上がり、楽しそうな笑顔であふれていました。8月5日(土)の「牛久保東 夏まつり」は、たくさんの人で賑わい、地域の方々をはじめ、本校の児童・職員もいっしょに太鼓をたたいたり踊ったりして交流を深めていました。これらの地域行事を通して、友だちや家族・地域の方々とふれあい、そこにかかわる人たちの願いや苦勞などにも思いや感謝の気持ちを寄せることは、本校教育目標『人・自然・まちとふれあい、自分を高める中川の子』の実践につながっています。



この夏休みなどの長期休業は、子どもたちが、学校から家庭や地域にもどっていく期間ですが、子どもたちの生活の大半は「学校」というイメージがあるかと思います。しかし、一年間を通してしてみると、子どもたちが学校で過ごす時間は思ったより多くありません。もっとも多くの時間を学校で過ごす5年生で計算してみると・・・

[1日7時間30分(8:15~15:45)×登校する日数203日] ÷ [24時間×365日]
 =0.17380・・・となり、2割にも満たないのです。実際には5時間や4時間で下校する日もあり、この数値よりもさらに少ない割合になります。

つまり、学校で学び身につけた力は、多くの時間を過ごす家庭や地域において発揮し、さらにそこで力をつけ成長していきます。この夏休みは、「人」「自然」、そして「まち」と豊かにかかわって、自分を高めた貴重な時間であったと思います。夏休みにつけた力を、これからの学校生活で発揮しながら、さらに成長していくことを楽しみにしています。